

第44回日本創傷治癒学会のご案内

東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座 形成外科学分野 教授 館 正弘

この度、第44回日本創傷治癒学会を2014年12月2日～3日に仙台で開催させていただくことになりました。

思い返してみますと、1991年に名古屋で行われた第21回創傷治癒研究会でケロイド(肥厚性瘢痕)の脂質成分の分析を発表したのが、この学会とのかかわりの嚆矢です。以来、この学会に研究成果を発表する事が毎年の目標となった、思い入れの強い学会です。創傷治癒研究に関してまったくの素人であった私にとって、創傷治癒の基礎や実験手技を学べたこの学会に感謝しています。知識だけではなく、人とのつながりも大きな財産となりました。学会場では、外科研修時代にお世話になった阿部令彦先生にもお目にかかって激励のお言葉をいただくと同時に、慶応の外科の先生方にご紹介いただきました。また、本学会を通じて、米国 Wound Healing Society の存在を知り、annual meeting にも参加するようになりました。特に1996年に Boston で開かれた合同学会のときには、Elof Eriksson 先生の研究室を同僚や研究仲間と訪れ、カンファレンスを持つ機会があり、非常に刺激的な思い出として残っています。

さて、私が医師としてスタートをきった1983年はハイドロコロイドの発売時期とほぼ重なります。当初は、【閉鎖療法は本当に大丈夫か?】という、今では考えられない素朴な疑問を覚えたものです。それからの30年間、創傷治療の変革を肌で感じておりました。その間、疾病や社会情勢の急激な変化にともなって、分野や職種を超えた横断的治療の必要性が増加しました。それに呼応するように本学会も、再生医療分野の研究者、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、薬剤師、臨床工学士など分野や職種を超えた学会員の構造になってまいりました。慢性創傷を扱う学会は増えていますが、様々な角度から創傷治癒そのものに関するディスカッションができる場は少なく、そこに本学会の存在理由があると思います。

本会のテーマは「ライフサイエンスとしての創傷治癒研究の進展」といたしました。創傷は正確な診断のもとに治療方針を選択すべきですが、患者への全人的アプローチが重要です。今後は多職種の連携の中で、社会的弱者になりがちな、慢性創傷を持つ患者のQOL回復のために努力する責務が私たちにはあると考え、このようなテーマを掲げました。

特別講演として国際高等研究教育機構研究院・学際科学フロンティア研究所所長の佐藤正明先生と、東北大学大学院医学系研究科環境保健医学分野の赤池孝章先生にお願いしております。佐藤正明先生には



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2014.7
No.82

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

メカノバイオロジーや学際的研究の開拓に関して、赤池孝章先生には活性酸素やNOによる炎症、酸化ストレス、細胞死・細胞増殖などのシグナル制御に関する研究についてご講演いただきます。

本学会では、他分野の基礎・臨床にわたるテーマをじっくり聞くことができるというのが、私自身の以前からの楽しみでありました。したがって、メイン会場は1つといたしました。また、なるべく討論時間を長くとれるよう、一部ポスター演題も採用する予定です。優秀ポスター賞を設けますので、こちらの

コンペティションにもご参加いただけますようお願いいたします。

12月初旬の仙台は、年によっては初雪が舞うこともあります。まだ凍える寒さではないと思います。週の半ばから始まる学会ですが、晩秋の仙台も楽しんでいただきたいと存じます。実りある学会となりますよう、教室員一同、心を込めて準備して参ります。多くの方のご参加を心からお待ち申し上げます。

第44回日本創傷治癒学会 —— ライフサイエンスとしての創傷治癒研究の進展 ——

- 会 期：2014年12月2日(火)・3日(水)
- 会 場：ホテルメトロポリタン仙台
〒980-8477 仙台市青葉区中央1-1-1
- 会 長：館 正弘(東北大学大学院医学系研究科 形成外科 教授)

-
- 演題募集期間：2014年7月16日(水)～8月20日(水)正午迄
URL <http://jswh44.umin.jp/>
-

※演題募集と同期間にて、研究奨励賞の募集も行います。
詳しくは <http://www.jswh.com/syourei/syourei.html> をご覧ください。

腹痛、腹部膨満感に

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

ダイ ケン チュウ トウ
ツムラ大建中湯
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)



- 腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感に効果があります。^{1)~4)}
- 次の3つの機序による腸管運動亢進作用を示します。
 - 1) セロトニン3型、4型受容体を介するアセチルコリン遊離促進(イヌ、ラット、*in vitro*)^{5)~7)}
 - 2) 消化管運動亢進ホルモンであるモチリンの分泌促進(ヒト)⁸⁾
 - 3) 知覚神経におけるTRPV1チャネルを介した作用(*in vitro*)⁹⁾
- CGRP、アドレノメデュリンを介して腸管(小腸、大腸)血流量を増加させます。(ラット)¹⁰⁾¹¹⁾
- アドレノメデュリンなどを介した抗炎症作用を示します。(マウス)¹²⁾
- 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告されました。(ラット)¹³⁾
- 重大な副作用は、間質性肺炎、肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)です。

効能又は効果

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

用法及び用量

通常、成人1日15.0gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(全文記載)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.副作用 副作用発生状況の概要 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明): 咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)肝機能障害、黄疸(頻度不明): AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

	頻度不明	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}			発疹、蕁麻疹等
肝臓		肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTP等の上昇を含む)	
消化器	腹痛	悪心、下痢	腹部膨満、胃部不快感、嘔吐

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 6.小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

*その他の詳細につきましては製品添付文書をご覧ください。

【文献】 1) Yoshikawa, K. et al. Surg Today. 2012, 42(7), p.646. 2) 壁島康郎ほか. 日消外会誌. 2005, 38(6), p.592. 3) 三木智雄ほか. Prog Med. 2000, 20(5), p.1110. 4) Horiuchi, A. et al. Gastroenterol. Res. 2010, 3(4), p.151. 5) Shibata, C. et al. Surgery. 1999, 126(5), p.918. 6) Satoh, K. et al. Dig. Dis. Sci. 2001, 46(2), p.250. 7) Tokita, Y. et al. J. Pharmacol. Sci. 2007, 104(4), p.303. 8) Nagano, T. et al. Peptide Science 1998, 1999, p.329. 9) 株式会社ツムラ社内資料 10) Kono, T. et al. J. Surg. Res. 2008, 150(1), p.78. 11) Kono, T. et al. J. Gastroenterol. 2011, 46(10), p.1187. 12) Kono, T. et al. Journal of Crohn's and Colitis. 2010, 4(2), p.161. 13) 香取征典ほか. Prog Med. 2012, 32(9), p.1973.



株式会社ツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2013年1月制作)

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。 VO-1001 ㊞